



成田 あれ・これ



令和4年7月号第325号

発行：一般社団法人成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

新型コロナウイルスの影響によりイベントの変更や中止が生じる場合があります。
最新情報をご確認の上お出かけください。ご理解の程どうぞよろしくお願いたします。
尚、イベントの情報は令和4年5月20日現在です。

成田祇園祭 三百年の歴史を誇る初夏の風物詩 7/8(金)～10(日)

成田祇園祭は、成田山新勝寺のご本尊不動明王の本地仏である奥之院に奉安された「大日如来」に五穀豊穡・万民豊楽・所願成就を祈願する「成田山祇園会」と、成田山周辺の町内が一体となり行われる「成田祇園祭」があり、約300年の歴史があります。

祇園会期間中の7月7・8・9日に直近の金・土・日の3日間(令和4年は8日～10日)に、成田祇園祭が3年ぶりに開催され、山車及び屋台が成田山へ続く参道を中心に巡行する予定です。

【お問合せ先】 成田祇園祭実行委員会
(成田市観光協会内) TEL:0476-22-2102

★成田山祇園会★

成田山祇園会(ぎおんえ)は、成田山新勝寺のご本尊「不動明王」の本地仏であり、新勝寺奥之院に奉安された「大日如来」に、五穀豊穡・万民豊楽・疫病退散・所願成就を祈願する成田山新勝寺の宗教的な祭礼です。成田山奥之院の特別開扉や天国宝剣加持といった、祇園会の期間に限って執り行われる行事があります。

◆成田山奥之院特別開扉【光明堂裏】

光明堂の後方にある奥之院の洞窟が特別に開扉され、ご本尊大日如来をお参りすることができます。
※日時については、成田山新勝寺へお問合せください。

◆天国宝剣加持【光明堂】

成田山開山の祖、寛朝大僧正が、朱雀天皇より授かった
あまくにのほうけん
天国宝剣。

金欄の袋に納められた宝剣が、僧侶の手によって参詣者の身体にお加持され、無病息災を祈願します。

霊験あらたかな成田山第一の霊宝に直接触れる機会は、祇園会の期間のみとなります。

※日時については、成田山新勝寺へお問合せください。

【お問合せ先】成田山新勝寺 TEL 0476-22-2111 (8:00～16:00)



関東の山車人形展と成田祇園祭展

江戸末期に制作されたものなど、関東各地にある山車人形と成田祇園祭の歴史を紹介したパネルの展示が行われます。

【日 付】 前半展示:6月 4日(土)~6月19日(日)
後半展示:6月25日(土)~7月10日(日)
10時~17時

【場 所】 成田市文化芸術センター
スカイタウンギャラリー

【休館日】 月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館。)

【お問合せ先】 成田伝統芸能まつり実行委員会(成田市観光プロモーション課内)

TEL 0476-20-1540



千葉県立房総のむら「七夕」

七夕は、けんぎゆう しよくじょ 牽牛・織女 が年に一度だけ会える日とされるほか、7月15日の新盆に備え、まこもなどで作る七夕馬を供える風習があります。これは農耕牛馬に対する慰労と、先祖を迎える意味などがあると考えられています。下記の期間、上総・下総・安房の農家や商家の町並みで笹飾りをします。

【日 時】 7月2日(土)、3日(日)、5日(火)、6日(水)、7日(木)

【休館日】 月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館。)

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

いざ！成田詣へ～街道旅日記～その①

今月から、成田山新勝寺までの旅の様子を江戸時代にまで遡り、紐解いてみたいと思います。

真言宗智山派大本山の成田山新勝寺は、朱雀天皇の勅命を受けた寛朝大僧正が、天慶3年(940年)に平将門の乱を護摩祈祷の法で平定したことにより開山された寺院です。以後、東国鎮護の道場として栄えましたが、その名が全国に知られるようになったのは、江戸時代中期の元禄13年(1700年)に、名僧といわれた照範上人が貫首となってからです。照範上人は、翌14年に新本堂(現光明堂)を建立し、さらに16年には江戸深川の永代寺に本尊不動明王を運び、初めての出開帳を行いました。

開帳とは、普段はみることのできない秘仏を拝観し、秘仏と参詣者との縁を結ぶ宗教的行事であり、これを他所へ出向いて行うのが出開帳です。期間中に江戸城内三ノ丸御殿において、徳川五代将軍綱吉の生母である桂昌院の礼拝を受けるなど成功を収めます。

また、歌舞伎役者の市川團十郎丈が成田不動を信仰し、成田屋の屋号を名乗り、不動明王が登場する芝居を打ったこともあいまって、成田不動は庶民の信仰を集めました。このように江戸の街に成田山の名が広まっていき、大勢の人達が成田を訪れるようになりました。

江戸時代中期以降は、交通路の整備と宿場の発展により、遠出の旅が盛んに行われるようになりました。

しかし、現在のように自由に出かけられるのではなく、基本的には領主の許可が必要でした。そのため領主が許可せざるをえない寺社参詣という信仰目的の旅、あるいは湯治といった温泉での治療目的の旅として届出が出されていました。

寺社への旅は、個人の信仰の場合もありますが、仲間の代表としての参詣も多く、同じ神仏を信仰する仲間講という組織を作り、それぞれがお金を積み立てて、クジに当たった数人がそのお金を使い、代表として参詣するというもので、代参といいました。

成田山人気と江戸から2泊3日(片道)の旅という手軽さもあいまって、成田山を信仰する組織である、成田講(講社)が各地で結成されることになりました。【次回へ続く⇒】

☆イベント等の関連情報については、FEEL成田(<https://www.nrtk.jp>)をご覧ください。☆